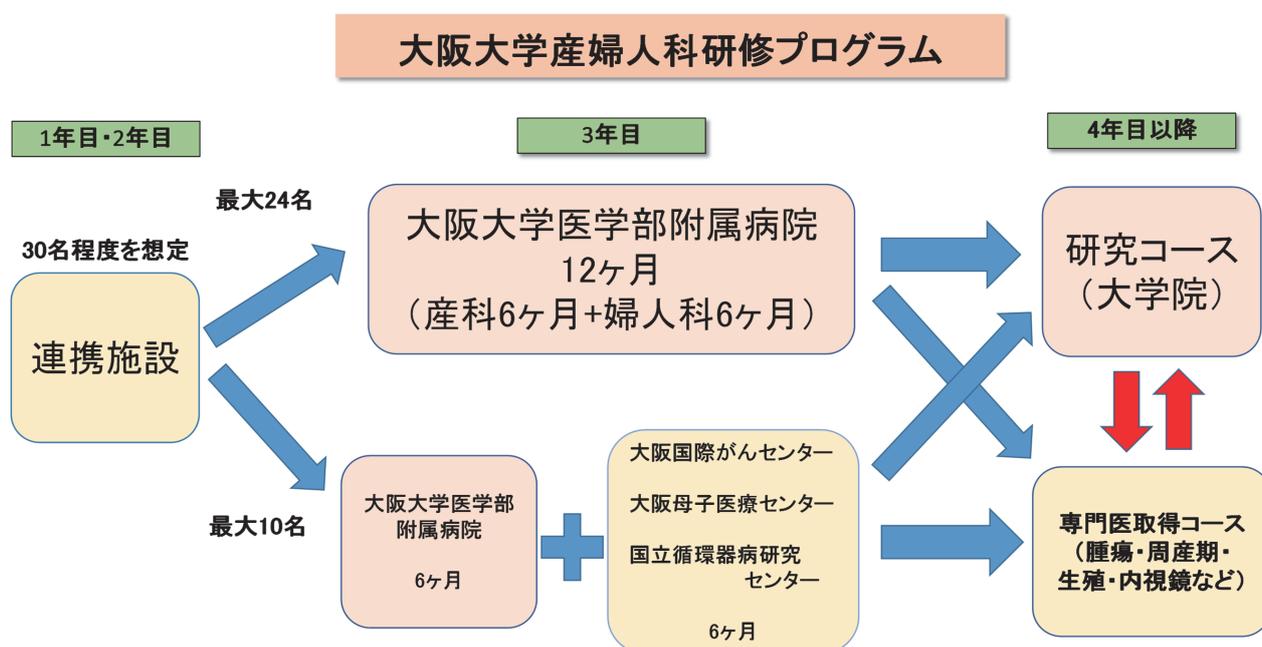


# 産婦人科専門研修プログラム

## (1) プログラムの全体像

最初の3年間でI期とし、2年を一般病院で、1年を大学で過ごし、産科・婦人科・生殖医療の産婦人科3領域を満遍なく経験した上で産婦人科専門医を取得することを原則としている。4年目以降のII期は、大学院での基礎的・臨床的研究または3つのセンター病院での臨床研究を行いながら臨床活動を行うか、地域医療を担う公的医療機関で高いレベルの産婦人科医療の実践を行う。前者は4年間、後者は2年間×2施設を循環することで多様な医療技術を身につける。さらに、8年目以降のIII期は、総合・地域周産期センター、婦人科腫瘍修練施設でそれぞれの指導医獲得を目指すか、または地域医療を担う公的医療機関で高いレベルの産婦人科医療の実践を行う。各人の医療習得段階と目標に合わせて、多彩な関連病院とセンター病院、大阪大学の間を循環することにより、医師としてのキャリアアップ、スキルアップを図り、総合的な実力と学問的能力を兼ね備えた各分野指導医の輩出を目指す。



## (2) プログラムの概要

専門分野：以下の各資格取得のための指導施設

(A:産婦人科専門医、 B:婦人科腫瘍専門医、 C:周産期（母体・胎児）専門医、 D:生殖医療専門医、 E:産婦人科内視鏡技術認定医 )

大学病院・医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	受入人数	期間
大阪大学医学部附属病院	産婦人科	産科・婦人科・生殖医療（総合周産期センター・地域がん拠点病院） A/B/C/D/E	16名	I期:産婦人科専門医取得のための総合的研修 II期:専門医取得後のアカデミックマインドの養成 III期:周産期・腫瘍・生殖・内視鏡指導医獲得のための研修	I期:12人 II期:12人 III期:8人	I期:1年 II期:4年 III期:3年
大阪国際がんセンター	婦人科	婦人科（がん拠点病院） A/B	5名	II期:専門医取得後のアカデミックマインドを持ちながら腫瘍指導医獲得のための研修	II期:4人	II期:4年

大学病院・ 医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	受入人数	期間
大阪労災病院	産婦人科	産婦人科(がん 拠点病院) A/B/E	3名	I期:産婦人科専門医取得の ための総合的研修 III期:腫瘍・内視鏡指導医 獲得のための研修	I期:2人 III期:3人	I期:2年 III期:3年
関西労災病院	産婦人科	産婦人科 A/B	8名	I期:産婦人科専門医取得の ための総合的研修 III期:腫瘍指導医獲得のた めの研修	I期:2人 III期:3人	I期:2年 III期:3年
大阪急性期・総 合医療センター	産婦人科	産婦人科 A/B/C/D/E	10名	I期:産婦人科専門医取得の ための総合的研修 III期:腫瘍・内視鏡指導医 獲得のための研修	I期:2人 III期:3人	I期:2年 III期:3年
大阪母子医療セ ンター	産科	産科(総合周産 期センター) A/C	7名	II期:専門医取得後のアカ デミックマインドを持ちな がら周産期指導医獲得のた めの研修	II期:4人	II期:4年
国立循環器病研 究センター	産科	産科(地域周産 期センター) A/C	6人	II期:専門医取得後のアカ デミックマインドを持ちな がら周産期指導医獲得のた めの研修	II期:4人	II期:4年
愛染橋病院	産婦人科	産婦人科(総合 周産期セン ター) A/C	4人	I期:産婦人科専門医取得の ための総合的研修 III期:周産期指導医獲得の ための研修	I期:2人 III期:3人	I期:2年 III期:3年
りんくう総合医 療センター・市 立貝塚病院連合	産婦人科	産婦人科(地域 周産期セン ター) A/B/C/E	11人	I期:産婦人科専門医取得の ための総合的研修 III期:腫瘍・生殖・内視鏡 指導医獲得のための研修 (貝塚)・周産期(泉佐野) 指導医獲得のための研修	I期:4人 III期:4人	I期:2年 III期:3年
市立豊中病院	産婦人科	産婦人科(地域 周産期セン ター) A/C/E	8人	I期:産婦人科専門医取得の ための総合的研修 III期:周産期・内視鏡指導 医獲得のための研修	I期:3人 III期:3人	I期:2年 III期:3年
市立伊丹病院	産婦人科	産婦人科 A	3人	I期:産婦人科専門医取得の ための総合的研修 II or III期:地域における 高度産婦人科医療の実践	I期:2人 II or III期 :2人	I期:2年 II or III期: 原則2年間
大阪警察病院	産婦人科	産婦人科 A/B	7人	I期:産婦人科専門医取得の ための総合的研修 II or III期:都市部におけ る高度産婦人科医療の実践	I期:2人 II or III期 :2人	I期:2年 II or III期: 原則2年間

大学病院・ 医療機関名	診療科名	専門分野名	指導者数	目的	受入人数	期間
地域医療機能推進機構（JCHO） 大阪病院	産婦人科	産婦人科 A/D/E	5人	I期：産婦人科専門医取得のための総合的研修 II or III期：都市部における高度産婦人科医療の実践	I期：2人 II or III期：2人	I期：2年 II or III期：原則2年間
済生会中津病院	産婦人科	産婦人科 A	4人	I期：産婦人科専門医取得のための総合的研修 II or III期：都市部における高度産婦人科医療の実践	I期：2人 II or III期：2人	I期：2年 II or III期：原則2年間
堺市立総合医療センター	産婦人科	産婦人科 A/B/E	5人	I期：産婦人科専門医取得のための総合的研修 II or III期：地域における高度産婦人科医療の実践	I期：2人 II or III期：2人	I期：2年 II or III期：原則2年間
市立吹田市民病院	産婦人科	産婦人科 A	2人	I期：産婦人科専門医取得のための総合的研修 II or III期：地域における高度産婦人科医療の実践	I期：2人 II or III期：2人	I期：2年 II or III期：原則2年間
兵庫県立西宮病院	産婦人科	産婦人科 A	6人	I期：産婦人科専門医取得のための総合的研修 III期：地域における高度産婦人科医療の実践	I期：3人 III期：2人	I期：3年 III期：原則2年間
日本生命病院	産婦人科	産婦人科 A/E	6人	I期：産婦人科専門医取得のための総合的研修 II or III期：内視鏡指導医獲得のための研修	I期：2人 II or III期：2人	I期：2年 II or III期：原則2年間
阪南中央病院	産婦人科	産婦人科（地域 周産期センター） A/C	4人	I期：産婦人科専門医取得のための総合的研修 II or III期：地域における高度産婦人科医療の実践	I期：2人 II or III期：2人	I期：2年 II or III期：原則2年間
ベルランド総合病院	産婦人科	産婦人科（地域 周産期センター） A/C	4人	I期：産婦人科専門医取得のための総合的研修 II or III期：周産期指導医獲得のための研修	I期：2人 II or III期：2人	I期：2年 II or III期：原則2年間
箕面市立病院	産婦人科	産婦人科 A/E	5人	I期：産婦人科専門医取得のための総合的研修 II or III期：内視鏡指導医獲得のための研修	I期：2人 II or III期：2人	I期：2年 II or III期：原則2年間
耳原総合病院	産婦人科	産婦人科	3人	I期：産婦人科専門医取得のための総合的研修 II or III期：地域における高度産婦人科医療の実践	I期：2人 II or III期：2人	I期：2年 II or III期：原則2年間
住友病院	婦人科	婦人科	1人	I期：産婦人科専門医取得のための総合的研修 II or III期：地域における高度産婦人科医療の実践	I期：2人 II or III期：2人	I期：2年 II or III期：原則2年間

市立芦屋病院	産婦人科	産婦人科	1人	I期：産婦人科専門医取得のための総合的研修 II or III期：地域における高度産婦人科医療の実践	I期：2人 II or III期：2人	I期：2年 II or III期原則2年間
兵庫県立がんセンター	婦人科	婦人科	7人	I期：産婦人科専門医取得のための総合的研修 II or III期：地域における高度産婦人科医療の実践	I期：2人 II or III期：2人	I期：2年 II or III期原則2年間
市立東大阪医療センター	産婦人科	産婦人科	4人	I期：産婦人科専門医取得のための総合的研修 II or III期：地域における高度産婦人科医療の実践	I期：2人 II or III期：2人	I期：2年 II or III期原則2年間
				受入人数	30人	

### (3) プログラムの実績

大阪大学とその関連病院合計してR2年13名、R3年17名、R4年14名、R5年12名、R6年には20名が産婦人科の専攻を開始した。従って毎年この程度の数の新規専攻医が加入すれば、上記のように大学・センター病院のI/II期では1学年数名の医師が、それら以外は1学年1名の医師が各施設でトレーニングすることになる。大阪大学大学院もR2年10名、R3年10名、R4年7名、R5年7名、R6年には10名の医師が入学しており、II期のアカデミックトレーニングも十分に行うことができる。

### (4) プログラムの指導状況

各病院には十分な数の産婦人科専門医が勤務しており、後進を指導している。婦人科腫瘍、周産期医療、生殖医療、婦人科内視鏡それぞれの指導医がII期、III期を担当する指導医獲得を目指す、と記した病院に勤務している。指導医獲得のためには相当数の学術論文が必要であり、大阪大学産婦人科は年間40報程度の英文論文を発表しており、十分な論文産生能力を持つ。

### (5) 専門医の取得等

資格名	① 産婦人科専門医（日本産科婦人科学会） ② 周産期（母体・胎児）専門医（日本周産期・新生児医学会） ③ 婦人科腫瘍専門医（日本婦人科腫瘍学会） ④ 生殖医療専門医（日本生殖医学会） ⑤ 産科婦人科内視鏡技術認定医（日本産科婦人科内視鏡学会）
資格要件	① 3年間の指導施設での勤務と症例経験、試験など。 ② ①取得後、3年間の指導施設での勤務、症例、論文、試験。 ③ ①取得後5年間の修練施設での勤務、手術症例、論文、試験。 ④ ①取得後3年間の修練施設での勤務、症例、論文、試験。 ⑤ ①取得後、症例、論文、ビデオ審査、試験。
【学会の連携等の概要】 ②～⑤の各サブスペシャリティ専門医取得のためには、①の産婦人科専門医の取得が前提となっている。	



問い合わせ先

■大阪大学医学部附属病院 産婦人科

担当者 上田 豊

✉ [heichi@gyne.med.osaka-u.ac.jp](mailto:heichi@gyne.med.osaka-u.ac.jp)

診療科ホームページ <https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/gyne/>

